

出てくる。「品種改良」について遺伝学が教えられるのは当然であるが、筆者は品種という概念を得られたことを生かし、種に発展させ、自然分類という学問的考え方を強く打ち出してゆくのがよいと思う。従つて、前述の如く、今まで取扱つた生物の各種の地位が明瞭になり、本来の分類学的考察ができるようになるのではないだろうか。また神経生理学については、本案のようにどこにもつける所がないから無理につけたかの如き案を排し、動物学的単元（筆者は第2学年に配当する）に附し、「心臓はなぜとまらないか」、「動物は何によつて行動するのか」といつた疑問に答えてやるように配慮すべきである。更にできることなら、科学史を展開し、自然科学の発展が封建社会にどのように圧迫を受けたかという点も、社会科で充分とり上げ得なければ、考えさせる必要があるであろう。

以上の如く、中学3学年間に教える方向が明らかとなれば、小学校はそれ以前の基礎に立つて、これらが学習しやすいうように配慮し、高校に於ては、これらを生物学の立場から学問的に単元設定を行つてゆけば、

まず無難な生物学教育として一貫した線が出るのではないだろうか。幸に兵庫県生物学会は小学校から大学までの先生の会であるから、このような点が討議される機会がもたれ、少くとも兵庫県下に於ける生物学教育に一本の筋金を入れることができると念願する次第である。

敗戦後、我国に残された資源といえば、人口だけである。しかし、その人口は、頭腦的には世界一流で、人口過剰に悩むことなく、頭腦を働かせ、世界に冠たる科学技術を生むことは至難の業ではない。このとり残されされた資源を活用させ得るか否かは、我々教育者に課せられた宿題ではないだろうか。筆者は一日も早く、我国の科学技術が、アメリカやドイツに於けるそのように、外貨獲得の原動力となることを夢みている。

理科教育には、まだ数多くの残された問題があるが、今号が印刷されるに当り一文を草した次第である。言葉の足りない点が多く、御質問も多くあろうかと思われるが遠慮のない御批評が頂ければ幸である。

新刊紹介

山陰地区隠岐群島を含む及び、その附近海域の魚類に就て

森 為 三 著

兵庫農科大学紀要、第2巻、第3号、B5、62ページ
本書は会長森博士が多年深海魚の研究をされ、裏日本、特に但馬沖から漁獲されたものを材料にして編された苦心の著である。

戦後、底曳網による漁獲が行なわれだしてから県下の市場とか合所にも今日まで見られなかつた珍しいものが見られるようになった。特に深海魚は奇魚、珍魚と言われるものが多い。この度の兵庫県生物展にも深海魚の一部のものが展覧されたが、この催しのうちで最も人気を呼んだものであつた。

こうした魚類鑑定は魚類図鑑などにはたくさん出ているが最後に種を決定することはちよつと我々には困難なことである。それでこうした県下の手引のあることは望ましいことである。

本文540余種の目録からなつており、目録は正確な

学名、和名、方言、採集場所、採集魚類の胃中の動物などの詳記がある。方言や深海魚の胃中の動物の紹介は特にうれしい。

また目録について深海魚、並びに但馬沖海底の特徴を多くの挿図を入れて親切丁寧な解説がある。最後に和名及び学名の索引、郷土の魚類に関する文献など、至り尽せりの類のない得難い文献で是非とも机上に揃えたい一書である。

この度、特に森会長に乞ひ生物学会会員のために増刷していただきました。それで御入用の方は至急、神戸市長田区寺池町、県立兵庫高校、室井紳あて1冊につき100円（送料とも）、ただし本会々員に限るをそえて申し込んで下さい。一般書店では300円で売販している。